

## 読書旬間ありがとうございました

子どもたちの生活に、お昼の読書がしっかりと位置づいていることは麻績小のよさの一つです。しかし、新海先生から「貸し出し冊数が減少傾向にあります」というお話をお聞きすると、悲しい気持ちや心配な気持ちがわいてきます。水曜日6時間授業が開始されて、水曜日の読書時間が確保できなくなりました。貸し出し冊数への影響も出ているかも知れません。でも肝心なことは、貸し出し冊数が増えることだけではなくて、本に親しむ習慣が身についていること、読書を楽しんでいること、将来に向けて読書を生活の一部にできることだと思います。小学生の「いま」、この時期が分岐点です。ご家族の影響もとても大きいものがあります。読書旬間の「読書カード」を読ませていただき、子どもさんが、兄弟姉妹や親御さんに「読んで聞かせてくれました」などと書いてくださっていると、温かい気持ちいっぱいになります。



6年生から1年生に『よみがたり』

先だって紹介した児童集会のほかに、学校では、朝読書・「絵本タイム」・「おはなし献立」・先生のよみがたり等に取り組みました。「絵本タイム」では高学年児童と低学年児童が、温かい雰囲気の中で相互に本を読み合いました。給食の時間は、おはなし献立を毎日楽しみにできました。あこがれの「ラピュタパン」を、給食でいただけたとは思ってもみませんでした。

さて、ご家庭での子どもさんの様子はいかがでしたでしょうか。読書旬間はここまでではありませんが、「いまから」を大切にしてくださるようお願いいたします。「読書が麻績小の自慢」「読書の時間が一日の中でも楽しみ」「家でも毎日〇〇分は本に向かおう」と思える子どもたちであってほしいのです。

## 放送委員から「わたしたちも…」のメッセージ

18日（火）児童集会では、放送委員会の皆さんによる発表がありました。

休み時間にボール遊びをしていて終了の放送が流れたとき、そして給食準備ができて放送委員が呼びかけたときの「よい例」「悪い例」を劇にして、時間を守ることの大切さについて呼びかけをしました。工夫されているなど感

じたのは、一方的に委員から全校に呼びかけるのではなく、「放送委員も『(放送が)遅れてすみません』を無くします」というメッセージが含まれていたことです。「(委員さんの言い分も)わかってはいるけれど…」と、ちょっぴり素直に聞けない気持ちの残る部分も、「ああ、放送委員も気をつけようとしているんだ、それなら、ね」と、受け入れやすくなる気がしたのです。果たしてこれが、放送委員さんのひと工夫(作戦)の部分なのかどうかについては確かめたわけではないのですが、わたしは、「お互いに」気をつけ合って、時間を守り気持ちよく生活しましょうという呼びかけに、とても好感を抱きました。



## 楽しみな「6年生がつくる給食献立」

18日、本校にお集まりになった郡内の栄養士の先生方が、6年生の家庭科授業を参観されました。「くふうしよう おいしい食事」ということで、栄養



バランスのよい1食分の給食献立を考える授業でした。6年生の皆さんは、成長期に必要な「カルシウムをとる」「鉄分をとる」、かぜ予防のために「ビタミンやたんぱく質をとる」の中から自分の選んだテーマに沿って、献立を考えていきました。ヒントカードから、メニューを選び、使われている食品を栄養素ごとに分けてみると、使われない栄養素が出て

てしまい、バランスを考えて別のメニューに換えていくという、なかなか難易度の高い活動です。中島先生や下寺先生ばかりか、参観されているよその学校の栄養士さんにもちゃっかりと助言をしてもらいながら(たくましい)、それぞれに献立をつくっていきました。ヒントカードに載っているメニューを選べば分かりやすいのですが、次第に使う食品を変更し、テーマに合わせて自分なりにパワーアップする工夫が出てきました。更には、オリジナルの献立(例「りんごのシャキシャキサラダ」)を考える子もあらわれました。

どの子も、とても真剣。なぜならこの学習をとおして6年生が立てた献立は、やがて実際に給食に出してもらえるからです。とても貴重な学習の機会を設けてもらっていると思います。そして、6年生の考えた給食メニューをいただくことのできる日が訪れるのを心待ちにしています。